

火山専門家との連携

■1977年有珠山噴火における専門家の対応

1977年有珠山噴火では、有珠山現地総合観測班が組織され地元役場で朝夕2回の現地説明会が持たれ、北大の横山・勝井両教授および札幌管区気象台の清野氏他が中心となった懇切丁寧な情報開示は、地元行政やマスメディア、住民から高く評価された。避難解除や火砕流予測を巡った困難はあったが、これらの課題は長期的な土地利用の提言書などにまとめられ、またその後のハザードマップ整備の潮流を生み出す原動力となった。

(文献：岡田弘，有珠山防災情報の核心・コミュニケーションによるコミュニティ支援，火山防災情報ワークショップ in 桜島 講演資料，2003.3.11) (太字は引用者による)

■1991年雲仙普賢岳噴火における専門家の対応

1991年雲仙岳災害では、九州大学による前年の小噴火の適切な事前予測や研究体制強化、更に溶岩出現予測に続く溶岩ドームの成長等、当初の予測はおおむね順調だった。火砕流が開始した段階においても、太田九大教授と下鶴予知連会長による現地での適切な解説や専門家の助言による危険区域指定や住民避難などが順調に行なわれた。このため、6月3日の火砕流災害では、多数の住民が自宅に留まり被災するという最悪の悲劇は避けられた。残念ながら危険区域に立ち入っていた41名と危機を知らせに立ち入った2名が火砕流の犠牲になった。これは危険区域内で実施されたオペレーションの危機管理の問題である。

避難の解除は常に極めて困難な課題である。... (中略) ... 火山情報によるコミュニケーションが成立せず、コミュニティ支援には無力だった。結局、地元の科学者太田教授が首長他と直接会い、段階的な避難解除や危険区域でのオペレーションにおける困難な専門助言を粘り強く長期間行い、地域や関係者から絶大な信頼を得た。

(文献：岡田弘，有珠山防災情報の核心・コミュニケーションによるコミュニティ支援，火山防災情報ワークショップ in 桜島 講演資料，2003.3.11) (太字は引用者による)

■2000年有珠山噴火の事前避難における専門家の対応

3月29日午後4時15分、北海道庁が地元首長の出席を求めて北海道防災会議地震火山部会火山専門委員会が壮瞥で開催された。会議に先立って岡田教授ら北大の委員は、会議の中で議論となるであろう論点をあらかじめ長崎虻田町長に伝えた。... (中略) ... 噴火後、長崎虻田町長は「この説明を受けた時『これは、ちゃんとやらねばならない』と本気になった」ことを岡田教授に語ったという。

(文献：虻田町史編集委員会，2000年有珠山噴火その記録と教訓 物語虻田町史別巻，p.288，北海道虻田町，2002)